

子育て支援 教育

Q 新生児聴覚検査の公費負担を



沖田ゆかり議員

A 〈町長〉
公費助成については優先課題を精査する中で検討していく。

〔Q1〕 新生児期において、先天性の聴覚障害の発見を目的として実施する聴覚検査の自己負担額は、一回当たり5千円程度と費用負担が壁になり検査を受けない母親もいるため、熊野町において公費負担をして頂きたい。

〔A1〕 検査に対する公費助成については、今後一層の拡充を要する子育て支援施策での優先課題を精査する中で検討していく。

〔Q2〕 厚生労働省は昨年3月、全自治体に公費助成の導入など、受診を促す対応を求める通知を出しているが、これについて、どのように取り扱われたのか。

〔A2〕 限られた財源の中で、

道路 交通

Q 〈時光 良造 議員〉
瀬野呉線バイパスの進捗と今後

A 〈建設部長〉
事業は順調に進捗しており、町東部の活性化に繋がる町づくりを検討している。

〔Q1〕 用地取得はどの程度進んでいるか。

〔A1〕 平成25年度から用地取得を開始し、面積ベースで91%。取得が必要な面積24ヘクタールの内、2.2ヘクタールが完了し、未取得は約2000平方メートルと県から伺っている。

〔Q2〕 今後の事業計画は。

〔A2〕 平成29年度の事業内容は、残る2000平方メートルの用地取得を進め、工事については、橋梁の工事に着手する予定と説明を受けている。
国の交付金のみならず、県の単独事業も含め予算確保を県に対し要望を行っていく。

〔Q3〕 バイパスが完成すると沿道の利便性が飛躍的に向上する。バイパス周辺の町づくりについて、都市計画も含め住民とともに検討してみたい。

〔A3〕 平成28年3月策定の「熊野町総合計画・後期基本計画」にもあるように、新たな産業振興の場を形成するなど、町東部の活性化に繋がる町づくりを検討していきたい。



▲ 県道瀬野呉線バイパス予定地

産業 観光 まちの魅力

Q 筆産業に対する町の支援は



時光 良造 議員

A 〈町長〉
熊野筆事業協同組合の人材育成や原材料確保の取り組みに対し、支援を行う。

〔Q1〕 平成18年度から3年間、国の受託事業として町が実施した後継者育成事業の効果は。

〔A1〕 3年間で75名が受講され57名が就職。22年5月時点で19名が離職し、38名が在職中である。

〔Q2〕 他の伝統工芸品の産地では、後継者育成のために研修期間中の賃金や家賃、雇用後の受け入れ先への人件費の補助を行っているが町としては考えないのか。

〔A2〕 補助金については、筆組合と協議しているが、受講者の選択や就業先の調整や確保についても協議していきたい。

〔Q3〕 原木や軸などの原材料の高騰・不足が懸念されているが、町としての対応は。また、今後の支援体制は。

〔A3〕 原材料の確保に関しては、町が仕入れや製造ができないので、組合にお願いするしかない。
後継者育成に関しては、現場のニーズに沿った人材育成を行い就業につながるシステム作りを筆組合から提案いただき、町として支援していきたい。



▲ 伝統工芸士による実演

Q 町の観光戦略と工房周辺の整備は



諏訪本 光 議員

A 〈町長〉
熊野町観光基本戦略検討委員会において、拠点となる筆の里工房周辺の整備について協議している。

〔Q1〕 現在、どのような施設を整備していく予定なのか。

〔A1〕 工房の北側へ自然を活かした公園と体験や食事ができる次の施設の整備を考えている。
○観光交流施設
○屋根付イベント広場
○せせらぎ広場
○見晴らしの丘
○冒険の森・広場
○こもれびの広場
○農家体験施設
公園や体験施設から取りかかる予定である。

〔Q2〕 全国の成功例も参考にもっと幅を拡げ、夢を持つことが必要だ。最重要施設は何か。また、新たな就労の場や特産品は考えないか。

〔A2〕 熊野筆のブランドを活かした体験や交流が

できる施設を重視している。特色のある料理や物品の販売など、話題性を高めたい。

〔Q3〕 工房周辺の広い範囲で関連する民間企業の誘致や経済的な支援は考えないのか。

〔A3〕 民間の活力は期待したいが、経済的な支援は検討していない。

〔Q4〕 広島湾岸トレイルとの連携や土岐城山・三石山等を含めた観光開発は考えないか。

〔A4〕 工房周辺整備に合わせ、トレイルコースとゆるぎ観音から赤穂峠、海田方面との関連性を深めたい。